

温暖化に適応できる、北海道向けの大粒大豆品種の開発

【研究概要】

研究代表機関：フジッコ株式会社

1. 研究背景・目的

北海道産大豆は、近年、生産量が増加している一方で、温暖化等の気候変動（特に開花期～子実肥大期の高温や干ばつ）の影響により、小粒化や裂皮等の発生など、品質面での課題が生じている。（右図）

品質の低下は、大豆入札取引における落札数量の減少や入札取引価格の低下につながることから、産地の収益性の低下が懸念されている。

そのため本研究では、温暖化トレンド下でも、高品質な大豆の生産供給ができるよう、温暖気象への適応性と北日本で栽培可能な早熟性とを併せ持つ系統を選抜育成し、R11～R12年度の品種登録出願につなげることを目的とする。



左：正常ロット

右：障害粒が多いロット

- ① 北海道の品種と本州の品種とを交配して得られた系統群より、北海道の気象条件（主に日長と気温）に適応性があり、かつ収量性が高い系統を選抜する。
- ② 温暖気象に対する適応性の選抜のため、育成系統の花粉を採取し、その発芽率等の評価を行う。
- ③ 高品質（大粒かつ裂皮が少ない等）で、加工適性が高い系統を選抜する。
- ④ 上記①～③によって、北海道（北日本）で栽培でき、なおかつ温暖気象への適応性を持つ、大粒の有望系統の選抜育成を行う。



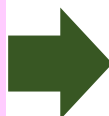
北海道品種×本州品種の交雑系統から選抜

3. 達成目標・期待される効果

達成目標

下記を満たす有望系統 3系統以上 を選抜する。

- ① 既存品種より 5～7% 粒大が大きい
- ② 既存品種より 障害粒が10%以上少ない
- ③ 収量が既存品種の同等以上



期待される効果

- ・温暖化に対応可能な大粒品種の導入
- ・北海道産大豆の収量および品質の安定（煮豆等の他、それ以外の用途の大豆の安定供給にも寄与）
- ・他地域の品種開発への技術的貢献